

ともはは12



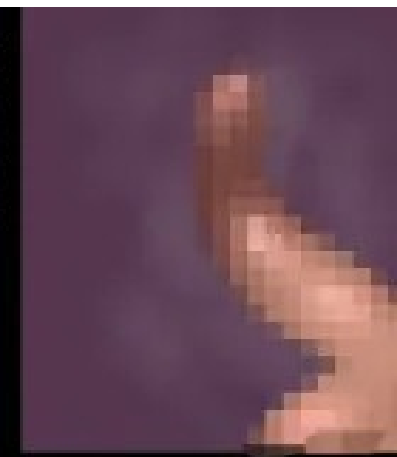


新しくできた
ママがいじめっ子に
犯される



おぼろげに...

おぼろげに...



愛持ちよくねえかえりな



僕の名前は幸之助

一年前友達家族と旅行中に事故に遭い僕と友達のママ加代さん以外はみんな死んでしまった

そして加代さんにママになってもらい生活していたある時から

学校でいじめに合うようになってきた

加代さんにバレないようにやり過ぎしてきたけどとうとう

いじめっ子は美人の加代さんとセックスを要求してきた

いじめっ子は僕を縛り付け加代さんに僕の友達として近づいてきた

僕の友達だと思ってる加代さんは快く迎え入れるけど……

『じゃあ加代さんやらせてよ……っ！』

『え？なにいつてんだ？』

『セックスさせて欲しいんだよ』



『な、何考えてんだ！そんなことさせるわけないだろ！！』

『まあまあそう言わずにさあ
おばさんも溜まってんじゃないノオ？』





『そんなこといっていいんすかあ？』

『や、やめる！こんなことでできない！』

『ま、まじなのすけー！』

『あんた知らなかったの？
幸之助は俺らにいじめられてたの』

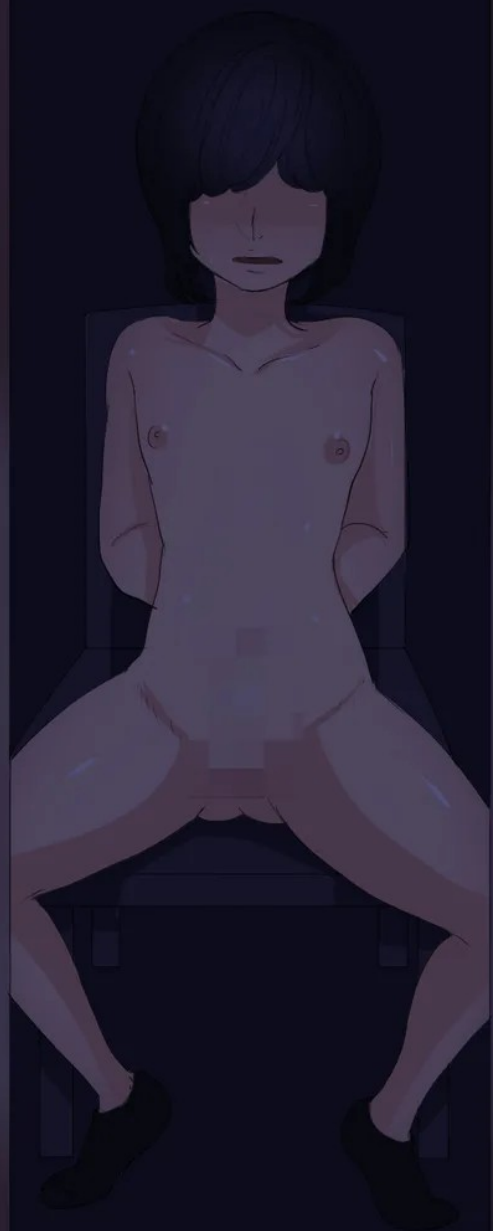


『加代さんわかつたっしょ
やらせてくれたらいじめやめるからさ♪』

『できなきや
こいつがどんな目にあうか
わかるだろ？』



『わかったから……言う通りにするから
あの子と関わらないでくれ……』



『これで……いいのか？』

『いいねいいね』

『その調子で幸之助に足「キ」してあげてよー！』

『なんでだよ！お前とセックスするんじゃないのか？』



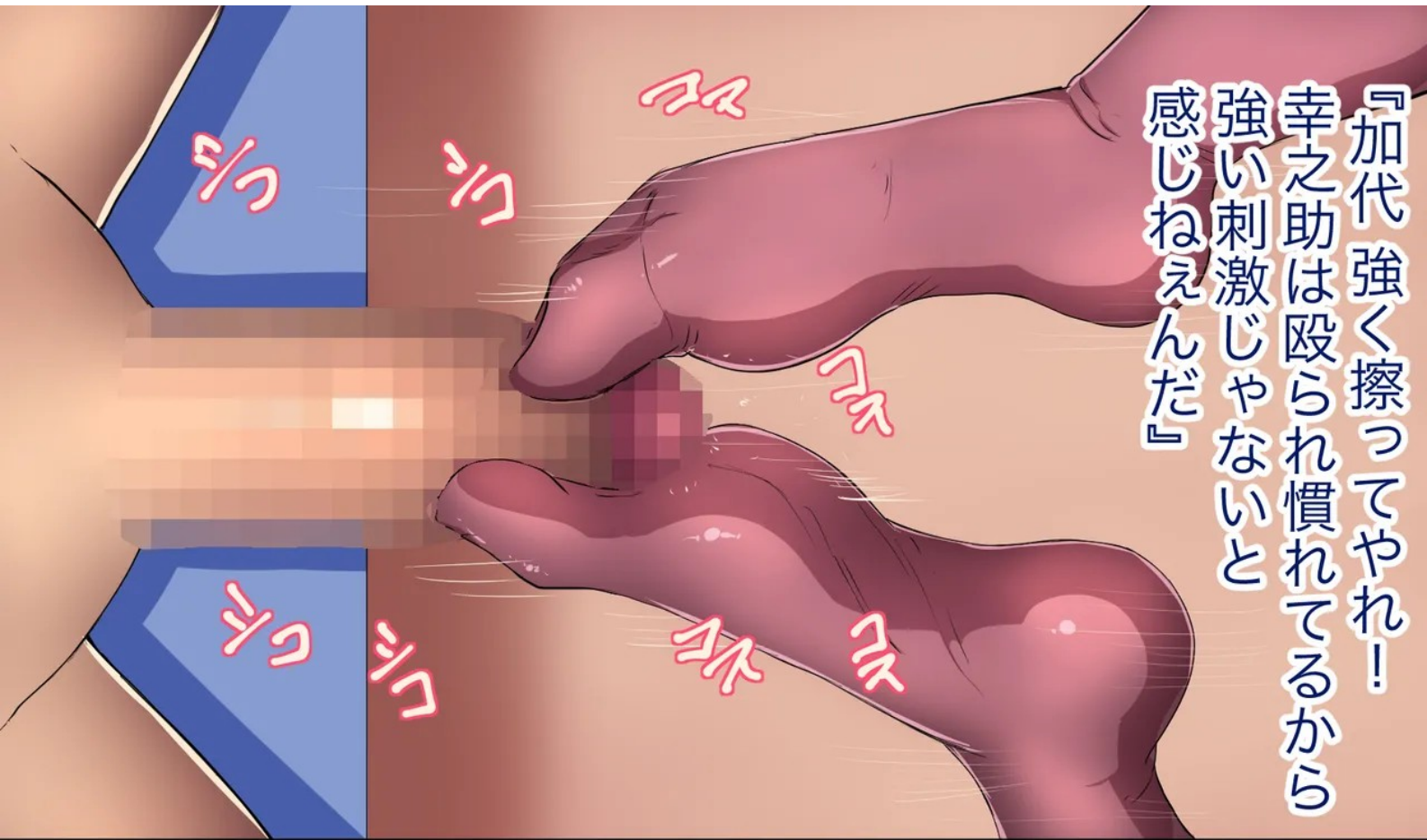
『いいから幸之助守りたいなら言う通りにしろよ！ババア！』

『くそ……わかったよ……ごめんな幸之助……』

『幸之助…
いやだと思っけど我慢してくれ…』

『僕は大丈夫
加代おばさんのこと好きだから…』





『加代強く擦ってやれ！
幸之助は殴られ慣れてるから
強い刺激じゃないと
感じねえんだ』



ごめん。。。幸之助
気づいてやれなくて。。。



『気持ちイイ。。。
もっと強く。。。』







『ほんじや
そるそる入れますか!』

『はあ?何ってんだよ...』

『思っちよついで待て
せめてゴムは着けてくれ...』

『そんなもんつけたら
気持ちよくねえだろうが!...!!』

人オキ
人オキ
人オキ

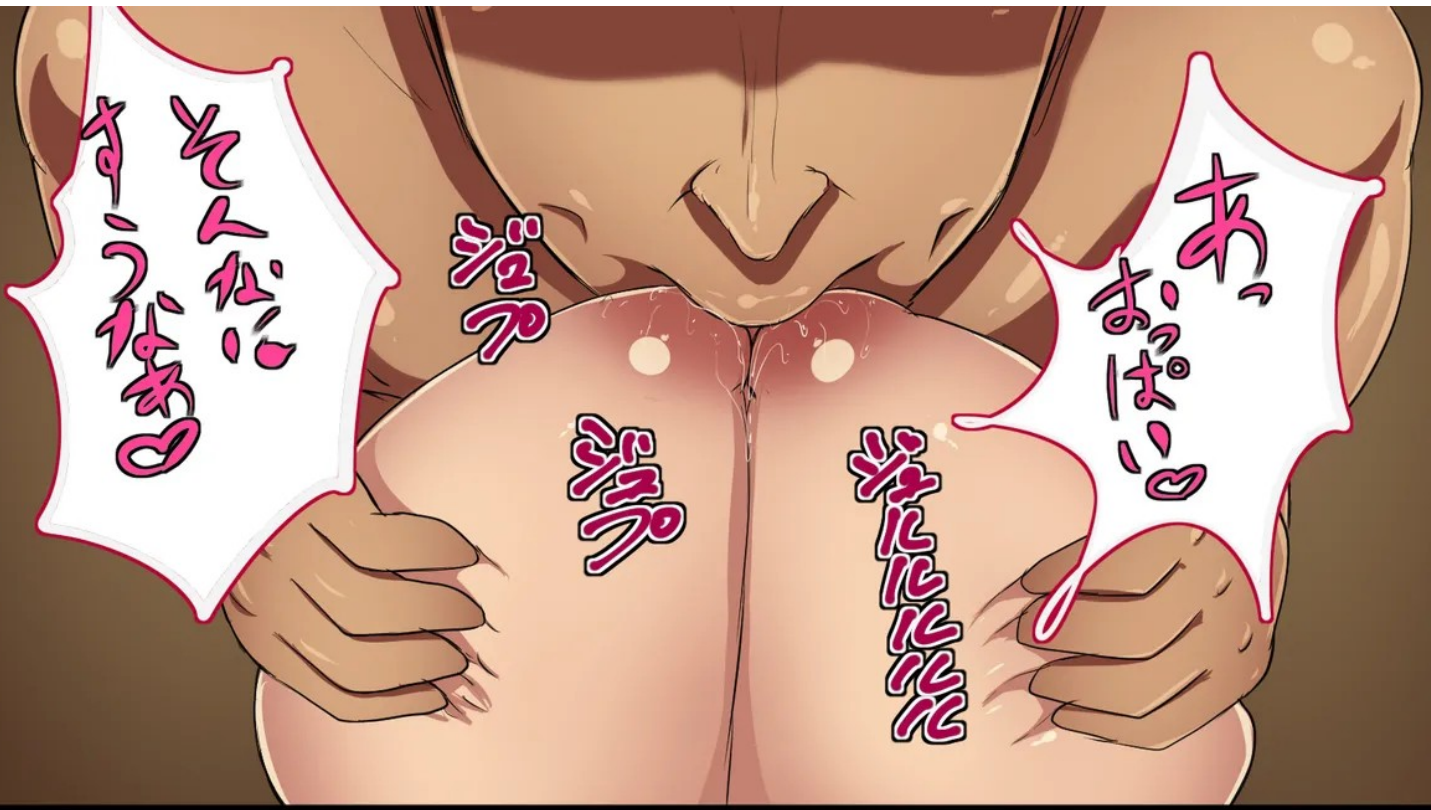
ズバズバ

『あれ？』

入れただけでいっちゃったの？
力仕事してるだけあって
オマンコの締めりいいね♡

生ちんぽ
やばすぎる……







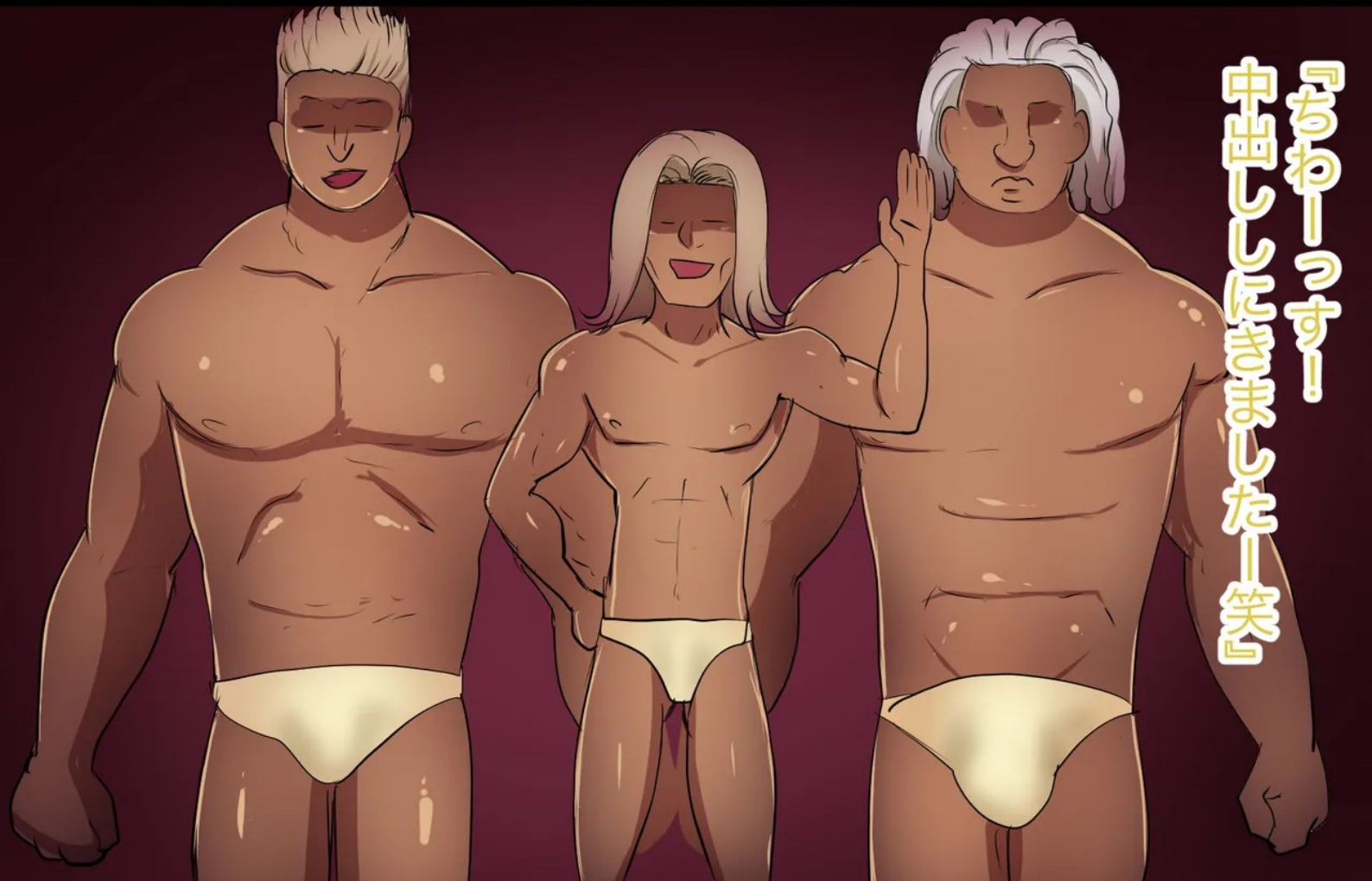
たまあまあ
♡

はっ♡
うま♡
あま♡
女♡
♡

ド
♡

ビ
ン

ビ
ュ
ウ
ル
ル
ル
ル
ル



一時間後

『あー満足した♪
よっしゃこれから飲みに行くかー』

『幸之助も開放してやるから
そのババアなんとかしとけよー!』





数日後
加代さんは僕の女になった
いつも通りの会話が続く中
僕らはもう男女の関係だった





今は僕らしか家族はいないんだから
いっぱいセックスして

家族を増やさないとね!



終わり













